

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年3月21日 葛飾白百合幼稚園

1 本園の教育目標

- ・子ども一人ひとりが尊重される環境のなかで色々な体験をさせる。
- ・心身ともにたくましい子どもに育てる。
- ・ヒトとのふれあいの中で学ばせる。

2 本年度重点的に取り組む目標

- ・令和6年度に引き続き、教育的行事の一環として毎月1回土曜日に行っているイベントと講演会一人でも多く参加してもらえるようにする。
- ・就労する母親への理解と協力を深め、支援する。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	それぞれの園児の発達段階に適合した適時性を考慮し、教えこみにならないよう保育する。	A	それぞれの保育課題の程度を精査し与えることができ、適時性を確保できたものと思われる。また、各クラスの教諭同士で理解できるように研修などもできた。
2	コロナ禍以前の遊び量、運動量を確保し、心身の発達に資する。また、一人ひとりが積極的に取り組めるよう、配慮する。	A	マスクをしたときも楽しく走り回り、コロナ禍以前と変わらない。スイミング・運動教室も再開し、運動量は確保できた。またほとんどの子どもがマスクをはずしているようだ。
3	子ども同士、教職員との関係を確保し、社会・情緒的能力の発達に資する。	A	より、精神的に密着した生活が行なわれ、関係は確保できた。また、クラスだけでなく幼稚園全体で取り組むことができた。
4	諸活動・行事は再開されたものが多い。また、イベント活動で「子ども達と保護者」がともに楽しめるよう配慮する。また、その時ははやりの感染防止を徹底する。	B+	行事・活動はほとんどできた。その都度、の感染防止もできたと思う。
5	就労する母親のために預り保育時間等を延長した。	C	預り保育の時間を延長したが、当園ではそれほどのニーズがなかった。

4 総合的な評価

評価	理由
B+	4つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、それぞれ所定の教育の実践をすることができた。行事・活動のたびに「園だより」「ホーム・ページ」「インスタ」などで保護者に状況を知らせることで、保護者の協力・理解を得られることも増えた。また、広報を続けてゆくことにより、開かれた幼稚園との印象を持たれた。子どもたちの自由で尊重される活動ができた。

5 今後取り組む課題

	課題	取り組み方法
1	個別の指導計画の策定	それぞれの園児の発達段階や個性を生かすため、クラスや学年で、より詳細な観察眼を養い、指導計画を作成。
2	健康を増進する方法の研究	従来の方法以外の方法を研究し、教職員相互に伝達しあう。(従前、外部講師を招聘しての勉強会と別に教職員同士勉強会を実施)
3	地域・保護者や学校との連帯	地域・保護者や学校と連帯し、意見を尊重するとともに、園児が居心地よく生活できる環境を園外にも広げていく。また、さまざまな形態で就労する母親を支援するため預かり保育の時間や長期休み預かり保育の日数を増加させる。
4	一人ひとりの子どもたちの力を十分引き出すことのできる活動を意識する。	一人ひとりの子どもたちが主人公になれるクラス作りを目指してゆく。

6 学校関係者評価委員会の評価

- 令和7年度はより多くのイベントや活動を増やし、子どもだけでなく親子で楽しんで参加することができたことがとても良いと思われる。そのための園全体の教職員のチームワークの力も上がってきたように見受けられた。
- 園児理解のための外部講師によるケースカンファレンスによって教職員一人ひとりの十分な力がついてきたと思う。